

hirotopi



舞台となった箒平地区

「とんぼのめがね」は、昭和23年に上浅見川箒平地区での情景をもとに作詞されたものです。広野町に住む医師で、高名な童謡作家であった「額賀誠志」氏が、戦後の混乱した中でも、子どもたちには童謡を通して明るく育ててもらいたいと願い創作されました。NHKのラジオで全国放送され、今でも子どもたちに愛唱されている童謡の代表作です。



「ひろの童謡まつり」の初開催を記念し、築地ヶ丘公園内に歌碑が建立されました。歌碑の文字は「とんぼのめがね」作曲者、平井康三郎先生によって書かれています。



JR広野駅の発車メロディーは唱歌「汽車」と童謡「とんぼのめがね」が使用されています。また、防災行政無線の音楽は、朝は「汽車」、昼は「広野賛歌」、夕方「とんぼのめがね」が使用されています。

広野町が舞台とされる唱歌「汽車」。1912(明治45)年刊行の「尋常小学唱歌」として発表されて以降、明治、大正、昭和にわたって愛唱されてきました。常磐線開通により、大和田建樹氏が東北地方を旅行した際に、久之浜く広野間の景観を作詞したものと伝えられています。



昭和57年に、作詞地を記念してJR広野駅構内に歌碑が建立されました。

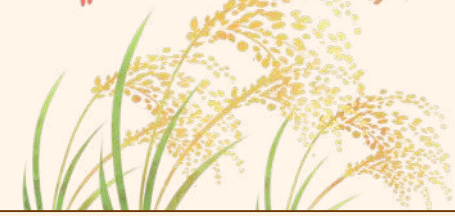
〈hiro topi - ヒロトピ - とは〉

自然、産業、イベント、スポーツなど、魅力が盛り沢山の広野町。その広野町について、毎号1つのカテゴリーを深掘りしてご紹介！

童謡のまち 広野 特集

とんぼのめがね【童謡】

とんぼのめがねは
水いろめがね
青いおそらを
とんだからとんだから
とんぼのめがねは
ぴかぴかめがね
おてんとさまを
みてたからみてたから
とんぼのめがねは
赤いろめがね
夕焼け雲を
とんだからとんだから



汽車【唱歌】

今は山中今は浜
今は鉄橋渡るぞと
思う間も無く、トンネルの
闇を通して広野原(ひろのはら)
遠くに見える村の屋根
近くに見える町の軒
森や林や田や畠
後へ後へと飛んで行く
回り燈籠の絵のように
変わる景色のおもしろさ
見とれてそれと知らぬ間に
早くも過ぎる幾十里

広野町は童謡「とんぼのめがね」が生まれ、唱歌「汽車」の舞台であると言われています。広野町の風景から生まれた童謡などを歌い継ぎ、町のPRを行おうと、10月5日が「ひろの童謡の日」として制定され、更なる「童謡の継承」と「新たな童謡の発信」が町全体で進められています。

兵庫県たつの市との協定
童謡誕生100年という節目を迎えた平成30年10月5日に、同じく童謡によるまちづくりを進める兵庫県たつの市と交流協定を結びました。相互に連携した童謡の普及・啓発活動が行われています。



ひろの童謡(うた)まつり

ひろの童謡(うた)まつりは、童謡のまち広野で平成6年度から続く童謡のコサートです。広野こども園、広野小中学校、ふたば未来学園中学校の生徒の他、町内外の合唱団やゲスト歌手が、童謡を披露します。広野町は童謡協会と協力し、全国から詩を公募しており、優秀賞に選ばれた作品に曲を付け生まれた、新しい童謡がコンサートで披露されます。

